



研修報告



中央区地域・医療連携交流会

テーマ「在宅生活を支える円滑な入退院連携を考える

～お互いの動きや働きかけを知ろう～

中央区地域ケアネットワーク地域部会との共催で、病院と在宅双方の動きや役割について理解を深め、円滑な入退院支援を行うことを目的に、令和4年10月20日(木) 14時～15時30分にオンライン(Zoom)で開催しました。参加者40名(病院:12名、在宅等:28名)

神戸赤十字病院 医療社会事業副部長の坂根千絵氏に「入院時の医療機関の動きについて」お話いただいた後、グループワークを行いました。また、あんしんすこやかセンターより「中央区における介護を取り巻く環境について」情報提供を行いました。

グループワークでは、80代、独居、心不全で緊急入院した事例をもとに地域(在宅)と病院、それぞれの動きや働きかけについて、情報共有や意見交換を行いました。

参加者からは、「連携シートの活用、連絡報告の有効性を感じた」「退院時だけでなく入院中でも密に情報提供することが必要」「緊急で入院後の病院対応の様子がよくわかった」「退院前カンファレンスの重要性を再認識しました」等のご意見をいただきました。



令和4年度

中央区医師会・神戸市ケアマネジャー連絡会中央区合同勉強会

テーマ「新型コロナウイルスについて～新型コロナウイルスの現状について学びませんか～」

令和4年11月10日(木)14時～15時30分に神戸市医師会館4階大ホールで、神戸市ケアマネジャー連絡会(中央区)と共催で開催しました。参加者30名

講師の野澤内科循環器科院長 野澤真人先生から、主に新型コロナウイルス感染症の基礎知識について、神戸マリナーズ厚生会病院院長 榎本勝彦先生から、新型コロナウイルスの診療や検査の現状、感染対策についてお話いただきました。

参加者から、「クリニックや病院の現状や工夫を知ることができた」「事例がわかりやすくよかった」「自身の日頃の感染対策を徹底すると同時に啓発に努めていきたい」等のご意見をいただきました。

今回の勉強会は、3年ぶりに開催、新型コロナウイルス感染症の診療等の現状を知り、次の感染拡大の波に備えて、知識や対応を振り返る機会となりました。

第10回中央区在宅医療介護連携研修会

テーマ「認知症の人の意思を支える～本人の思いや生活を多職種で支えるために～」



令和4年11月24日(木)14時～15時30分にオンライン(Zoom)で開催。兵庫県看護協会 認知症看護認定看護師の西田珠貴氏にご講演いただきました。参加者28名 西田先生から、老年期の特徴について、健康状態・疾病ステージに応じたACPの焦点の変化、ACPの必要性、意思決定プロセスにおける医療・介護職の役割、コミュニケーションについて、意思決定支援ガイドライン等についてお話いただきました。

講演後はグループに分かれ、「研修を受けて印象に残っていること」等について、自由に意見交換を行いました。

参加者から、研修で学んだことや気づきとして、「日常的なかかわりの中でACPを意識しておく」「日頃の会話の中から価値観や死生観に繋がるエピソードをひろっておく」「何気ない会話からでてくる問題点を見逃さないようにしたい」「心地よい時間、場所を作り、話を聞き取ることを心掛ける」「ACPは死に方ではなく、最後まで自分らしく生きることと改めて学べた」等のご意見をいただきました。

医療介護サポートセンターでは、医療・介護等の専門職を対象とした在宅医療・介護に関する研修会を開催しています。研修での学びや気づきを事業所内や多職種等で情報共有し、日々の実践に活かしていただければ幸いです。



2023年

1月1日第20号

【発行】

中央区医療介護
サポートセンター

【住所】

神戸市中央区磯上通
3-2-17-6F
中央区医師会内

TEL:078-272-3001

FAX:078-272-3002

担当 辻村・羽原



サポ[®]ートセンター便り
中央区医療介護

中央区医療介護サポートセンター便りは
年4回(4月7月10月1月)の発行です

サポートセンターホームページのご案内

<https://kobe-iks.net/>



各区サポートセンターの紹介やお知らせ、研修案内、活動報告等をご覧いただけます。ぜひ、ご活用ください



災害対応について考え、備えましょう

ハザードマップ等を確認しましょう

「くらしの防災ガイド」(6月に全戸配布)で、地域の危険性や緊急避難場所を把握しましょう。自宅や事業所、利用者宅の地域について、移動経路等も含めて確認し、情報を共有しましょう。



～神戸市ホームページより～

持病の薬を備えましょう

地震や豪雨などの災害はいつ起こるかわかりません。緊急に避難しなければならなくなったり、外出先から帰宅できないこともあるかもしれません。かかりつけ医療機関や薬局が被災して、受診できなくなることも考えられます。

日医ニュースによると、高血圧や糖尿病、心臓病などの慢性疾患でお薬を飲んでいる方は、薬が足りなくなると命にかかわることもあります。持病の薬は非常用に3日分を準備しておくことと良いとのこと。

先にもらった薬から飲んで、新しい薬を非常用に備え、次にもらったら、新しい薬と取り換えて、常に薬が古くならないようにします。保管する場所に条件(冷暗所、常温等)のある薬もありますので注意しましょう。



また、日頃から急病やケガ等のものしものときに備えて、「安心カード」「健康保険証」「かかりつけ医療機関の診察券」「お薬手帳」等を財布やカバンにまとめ、持ち歩くことが大切ですが、災害時、避難先等でお薬がなくなった場合、お薬手帳があれば、カルテがなくても処方の内容がわかり、同様の薬を出してもらうことができます。

災害時にも備えて、お薬手帳等の携帯やお薬の備えについて、利用者や家族等と相談しておきましょう。

～日医ニュース令和2年9月5日より～

ローリングストック法を活用しましょう

備蓄は大切な命を守るためのものであり、乳幼児、高齢者、アレルギーがある、持病がある等一人ひとりに合わせた食品を考え、備えておくことが必要です。

普段の生活で使用できる食材を少し多めに買って備える「ローリングストック法」を活用しましょう。



ローリングストック法とは、「食材を食べながら(ローリング)、備蓄(ストック)する方法」です。非常食だけを備蓄するのではなく、レトルト食品など普段の生活でも食べられる食材を多めに購入(備蓄)します。購入した食材は定期的に食べて(ローリング)、食べた分を買い足して備蓄します。食べながら備えるため、保存期間が短い食品(半年から1年)も備蓄品になります。

～中央区広報紙2021. 7月号より～

支援者自身が災害対応への意識を高め、実践することから始め、情報を共有し、取り組みをすすめていきましょう。

サポートセンターからのお知らせ



研修会のご案内

第11回 中央区在宅医療介護連携研修会
テーマ: 高齢者の生活を支える法制度と意思決定支援～本人の思いや生活を多職種で支えるために(仮)
日時: 令和5年1月18日(水) 14時～15時30分 オンライン(zoom)
講師: SIN法律労務事務所 弁護士 福島 健太 氏
詳細等については、ホームページをご確認ください

